

# 第2回協議会に向けた在宅医療・介護連携に関する アンケート結果

協議会委員の皆様には、大変お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

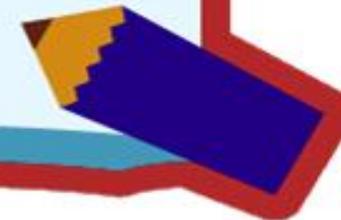
自由意見等は、一部を除き原文、全文を掲載しています。

【医療・保健】 医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、栄養士

【介護】 介護支援専門員、訪問介護(管理者)、通所介護(生活相談員)、グループホーム(管理者)

【福祉】 社会福祉士

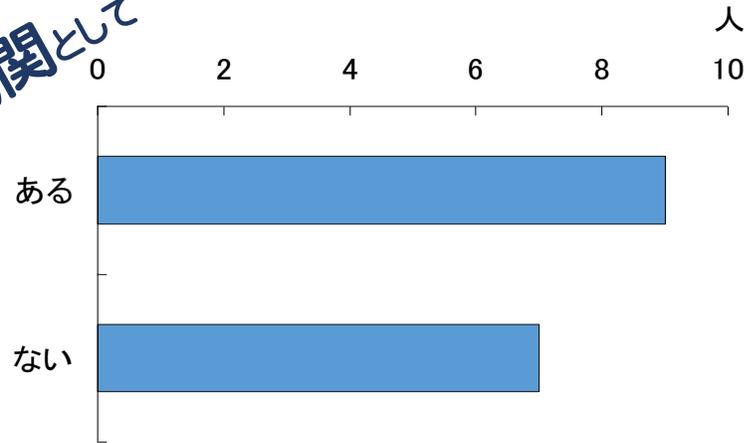
【行政】 県(保健所)、市、消防



平成28年8月

問1. 在宅医療、医療と介護の連携のほか、地域包括ケアの推進に関して学ぶことができる機会（研修会、フォーラム等）がありますか。

所属機関として



「ある」の内容

【医療・保健】

- ・地域連携のためのWebシンポジウム聴講（医・看）
- ・地域ケア会議への参加・介護認定審査会への出席（医）
- ・歯科医師会の学術部会、公衆衛生部会による研修会及び講習会。DVD等の資料配布等
- ・多職種ICT研修、介護保険改正勉強会（栄）
- ・本部研修室にて研修会開催（薬）

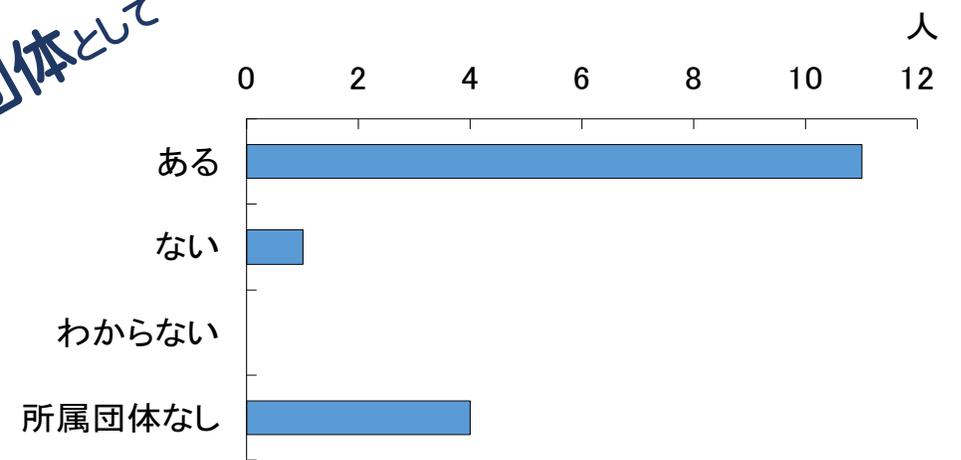
【介護】

- ・都市部で開催される在宅介護、介護保険と地域づくり等の研修会に参加（居）

【福祉】

- ・新総合事業の推進に関する実務者研修会、NPO・地域交流フォーラム・連携課企画の研修会

所属団体として



「ある」の内容

【医療・保健】

- ・国保研究発表会や自治体病院協議会の研修等
- ・医師会にて研修
- ・県医師会講演会・和気医師会学術講演会・かかりつけ医研修会・認知症対応力向上研修会・脳卒中トータルケア研修会等（医）
- ・地域包括推進リーダー研修の取得制度がある（理）
- ・訪看ステーション管理者と病棟師長との交流会など
- ・各地区歯科医師会による単独あるいは共同の研修会及び講習会
- ・県栄養士会主催「医療・福祉事業部合同研修会」、県栄養士会主催「生涯教育研修会」でテーマを設けて研修し、単位を取得。

【介護】

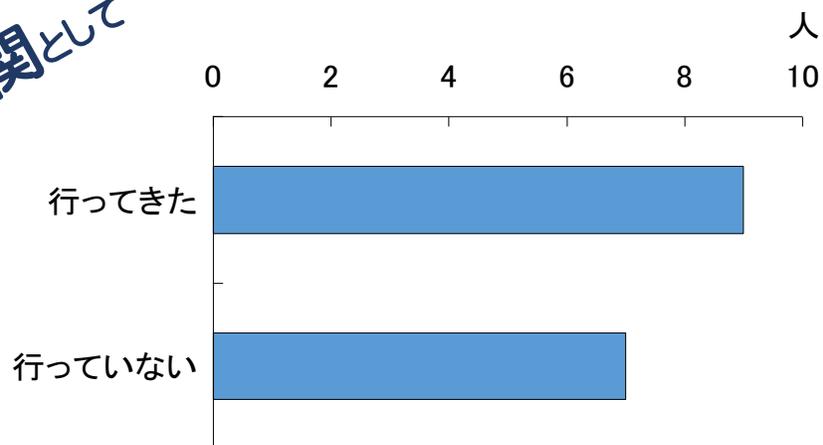
- ・岡山県地域包括ケアシステム学術大会（居）

【福祉】

- ・定期的に研修会があり、その中のひとつにテーマとして組み入れられていたり、他団体が主催する研修会等の案内（チラシ）も定期的の便りと共に案内がある。

## 問2. これまでに、「医療と介護の連携」のための会議等を行ってきましたか。

所属機関として



「行ってきた」内容

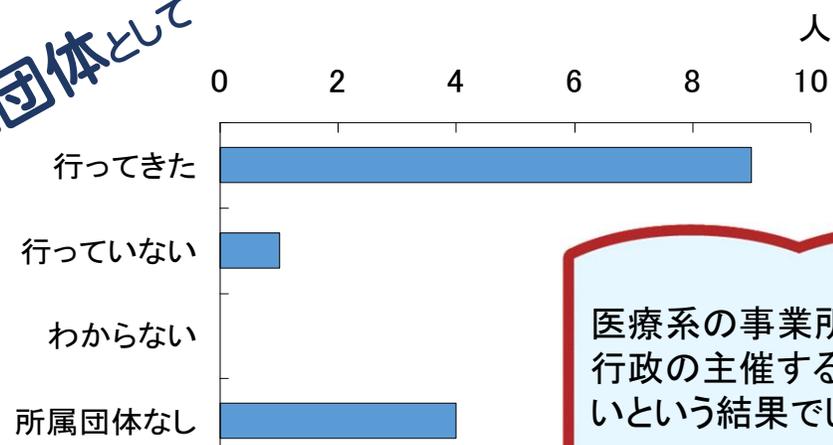
### 【医療・保健】

- ・月2回の介護・医療連絡会を開いている（医）
- ・地域ケア会議への参加・介護認定審査会への出席（医）
- ・県南東部地域医療連携推進会議、東備地域医療連携推進研修会、備前県民局東備地域医療連携推進事業、地域医療安全研修会（歯）
- ・多職種ミーティング
- ・退院時支援連携会議・「情報交換会」へ関連する議題の時に退院支援担当病棟看護師が出席
- ・「ケアマネの会」での講演を通じて（薬）

### 【福祉】

- ・日生医療保健福祉情報交換会、北サブ情報交換会
- ・退院前カンファレンス  
⇒退院後、スムーズな介護サービス利用ができるよう医療職（看護師、リハビリ職等）と本人、家族、ケアマネジャー、介護事業所等と会議実施。

所属団体として



「行ってきた」内容

### 【医療・保健】

- ・岡山県国保診療施設運営協議会主催の会議（医）
- ・医師会にて研修
- ・地域医療連携カンファレンス・エーザイ(株)による研修会（医）
- ・東備地域医療連携推進検討会議に出席（看）
- ・岡山県備前保健所運営協議会（歯）
- ・多職種ミーティング
- ・多数あり

### 【介護】

- ・連携ルール（入退院ルール）づくりの会議

医療系の事業所や団体、行政の主催する会議が多いという結果でした。

問2 - 2 問2の(1)又は(2)で「①行ってきた」と回答した方のみお答えください。

「医療と介護の連携」のための会議を行ってきて、医療と介護の連携について困難を感じていたことはありますか。あれば具体的に記入してください。

**【医療・保健】**

- ・地域や職種での知識・意識に温度差があり、必要性を啓発していくことが大切だと思います。
- ・制度の変更により少しずつ取り組み方（考え方）が変わってきたと思われる。医師は大体とっつきにくいという感じを持たれているように思われる。
- ・県民局の会議は各委託事業の報告会である気がする。また、各市町村の取り組みや進捗状況に差を感じる。議論の内容、決定すべき事項をあらかじめ知らされているとよい。関係する団体や職種が多く、それぞれの立場があり、看護師でも医師には遠慮することが多い。現場を知っているから理想ごとばかりは言えないという思いもある。
- ・「死」に対する認識の違いが大きすぎる。現場の意見がまとまっていない。あるいは柔軟性に欠ける。携わる者の高齢化。それぞれの仕事がコストパフォーマンスに欠け過ぎる。
- ・介護保険制度の改正が多く、介護保険の情報を得る手段が無い。
- ・お互いの専門知識や職能を尊重して、専門分野を担当していくことが連携に不可欠ですが、会議の場などでは、互いの理解を深めることや、相談しやすい関係を構築するための時間が不足気味です。

**【介護】**

- ・連携ルールの調整と確認はできたが、実態はこれまでどおり。病院で働く方の意識の持ち方。公立病院の医師に「在宅（介護サービス）で何ができる？何をしてくれる？」と言われた専門職もいる。

**【福祉】**

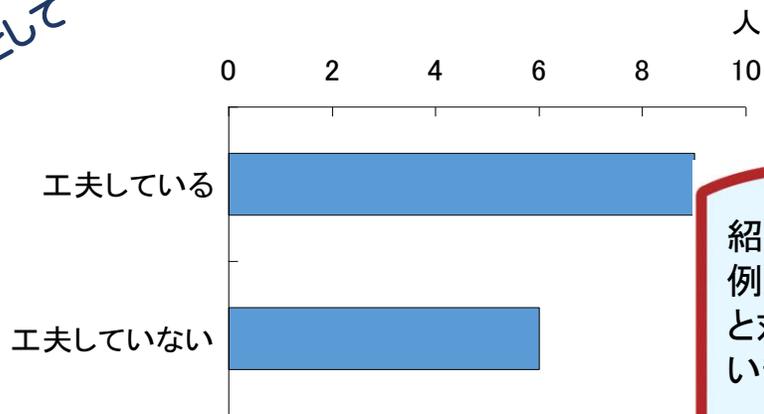
- ・医療関係者に介護保険制度に対する理解がないと感じることがあった。
- ・介護側からの細かい情報提供を求められること。
- ・医療側と介護側の会議に費やす時間の価値観。

**【行政】**

- ・医療と介護の現場にはそれぞれの立場があり、それが連携に限界を作っているように感じる。

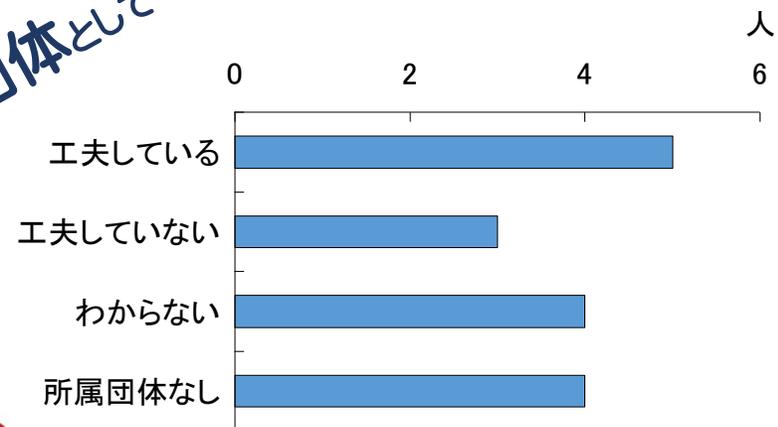
### 問3. 在宅医療と介護が切れ目なく提供される体制の工夫をされていますか。

所属機関として



紹介いただいた取り組みを例に、共通する課題の把握と対応策の協議につなげていきたいと思えます。

所属団体として



#### 「工夫している」内容

##### 【医療・保健】

- ・訪問看護ステーション利用の方が入院、レスパイトしたときは医療情報を提出して連携に努めている。退院時カンファレンスがあればスケジュールを調整して病院へ出向いている。
- ・岡山県歯科医師会事務局に「往診サポートセンター」の設置
- ・訪問診療の実施
- ・退院前PT訪問で問題点把握、退院前カンファレンスの実施

##### 【介護】

- ・開業医等と電話、メール、訪問により確認。ケアプランの交付。
- ・退院時のサービス担当者会議への参加

##### 【福祉】

- ・医療機関との受診調整や本人、家族との仲介、代弁を担うことがある。また、介護側へ医療に関する情報を提供し、その対象者の把握が可能になるようにしている。
- ・ケアマネがついている方の場合は入院時より情報共有。ケアマネがついていないけれど介護が必要と見込まれる方は介護保険申請、ケアマネ、地域包括支援センター等との連携。

#### 「工夫している」内容

##### 【医療・保健】

- ・情報を正確にやりとりする（医）
- ・病院・施設・在宅などいろいろな場で働く看護師の意見交換会、研修会を設けている。
- ・地区歯科医師会に県歯「往診サポートセンター」からの依頼に対応する「往診サポート推進センター」の設置。
- ・岡山県栄養士会の栄養ケアステーションへかかりつけ医から要請があれば、近隣在住の管理栄養士を有料で栄養指導に派遣可能。

### 問3 - 2 皆さんにお聞きします。退院時の支援やターミナルケアなど、切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築のため今後特に検討を要することは何だと思えますか。

#### 【医療・保健】

- ・地域連携室の充実、訪問型医療、介護スタッフの増員、情報共有ツールの確保。
  - ・流れを見渡せる「マネジメント」のできる人材の育成と支援・提供体制の確立。
  - ・療養者の希望や意思を早い段階から確認する機会を持つこと、それを実現するためにどうしたらよいか、何が必要か、誰に相談するか等をアドバイスできる人がいること。
  - ・ソーシャルワーカーやケアマネジャーの方々と医療の連携、ご本人・家族への十分な説明と援助、医療と介護の体制の整備と充実
  - ・お互いの思いやりや立場の尊重
  - ・小さなコミュニティでまずまずのアナログ稼働がされているところでは、ICTは敷居が高い。小さなコミュニティの連携を望んでいるのかもしれませんが。病院レベルでの対応をすすめて 医院レベルは世代交代を待つしかないのでしょうか。
  - ・当院に訪問看護ステーションが無く、訪問看護ができていない。
  - ・多職種が「顔の見える研修会」で、顔見知りになり、気楽に相談できる環境。
  - ・病院・福祉施設での食事形態の名称を統一。
  - ・必要であれば、「栄養情報提供書」を、退院先の施設栄養士宛に作成。
- 情報の共有・伝達が不十分で、必要なサービスや物資の提供が遅れることなどが起こっていることを考慮すると、退院時共同指導を行うことや、各々が必要とする情報を定型書式化したものを作成して、情報不足とならないようにする。

#### 【介護】

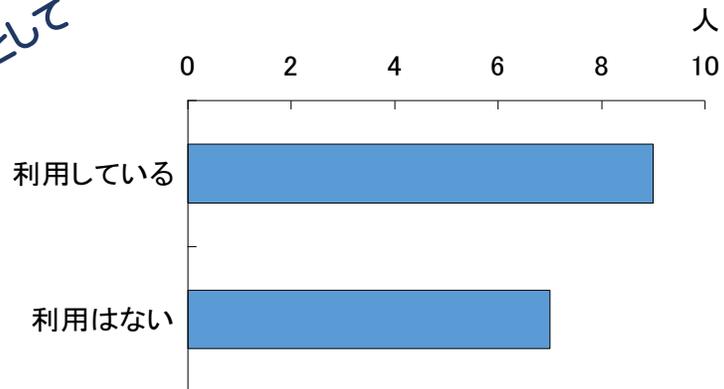
- ・市民一人ひとりの生活状況を理解し、対応する担当者の状況を理解し、必要な支援をつなげていくことが連携だと思います。①在宅療養、介護者の生活課題の理解 ②医療介護サービスの提供状況の理解 ③訪問看護・訪問リハビリの充実と主治医との連携 ④公立病院と開業医との連携 ⑤地域密着型通所介護の看護師配置の課題
- ・市内の老人保健施設が中間施設としての役割を果たしているのかどうか。入所順位の決定方法は適正かどうか、在宅復帰のケースはどれくらいあるのか。備前病院に療養病床が新設された理由。
- ・リアルタイムで情報交換・共有できる仕組みづくり。
- ・グループホームでターミナルケアをするためには、24時間体制での受け入れを確保することが必要で、医療機関が確実に受け入れてくれれば安心して看取りをすることができる。

#### 【福祉】

- ・担当医との情報共有・病診連携による役割の明確化とケース関係者との共有。
- ・病院医師の在宅医療、介護の理解。（医療依存度の高い患者様へ施設勧奨傾向）ケアマネジャーの在宅医療の理解。（医療依存度の高い患者様への脅威払拭）※相互理解

## 問4. 現在、情報共有のためのツールやシステムを利用されていますか。

所属機関として



### 「利用している」内容

#### 【医療・保健】

- ・晴れやかネット(医・薬)
- ・情報提供書や退院時に指導書を発行(医・看)

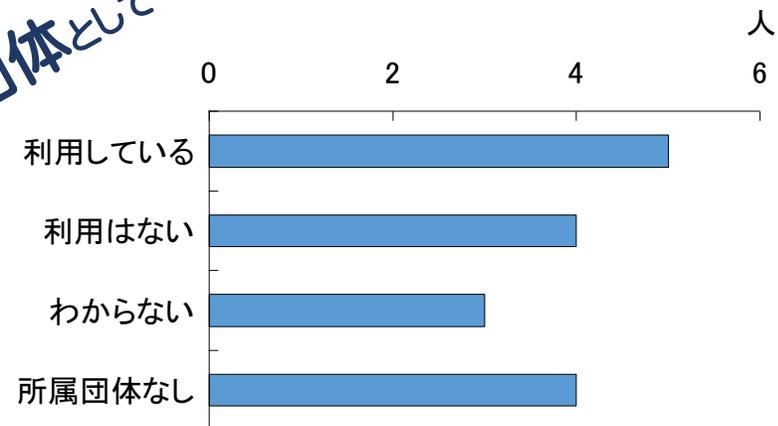
#### 【介護】

- ・病院指定の連携シート（居）
- ・紙媒体による（統一様式なし）（デ）

#### 【福祉】

- ・支援の対象者ごとに心身の状況、要介護度、相談対応の内容などを「包括システム」に入力し、包括スタッフであればサブセンターでも閲覧可能としている。
- ・入院時情報提供書様式、患者様情報提供様式、退院時に看護サマリーの提供

所属団体として



### 「利用している」内容

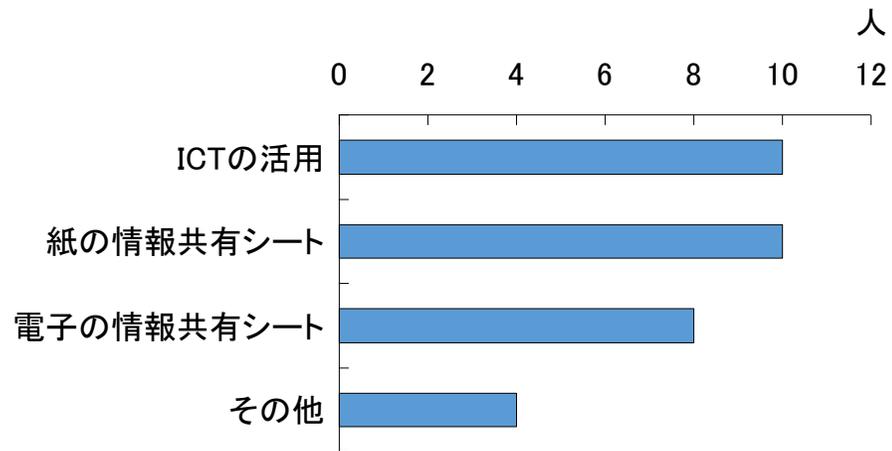
#### 【医療・保健】

- ・晴れやかネット（医）
- ・岡山市のクラウドを使ったカナミックTRIRUSシステムのパスワードはもらっているが使ったことはない。メール、FAX（看）
- ・所属団体のHPで情報共有

#### 【介護】

- ・モモノウネット系のシートはあるが、脳梗塞や骨折の場合に限られ、それ以外では実用的でないし運用は難しい。個々のケアマネに任せている（居）

問4 - 2. 今後、医療と介護の連携に必要なツールは、どのようなものだと思いますか。（複数選択可）



「その他」の内容

【医療】

- ・電話等で直接話すことも必要

【介護】

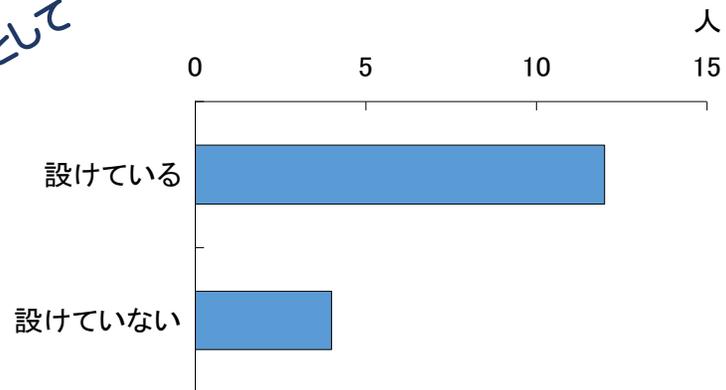
- ・適切な連携に向けて必要な勉強会、研修会、意見交換会、会議を重ねて在宅医療介護連携の目指すところの目的・目標・課題を共有して達成のための情熱を皆が心を同じくして持てるかが最優先。この土台があってこそ最適なツールが決まる。
- ・ICTの内容次第

【福祉】

- ・固定化ではなく、状況に応じて紙、電子、ICTの利用

## 問5. 在宅医療と介護に関する何らかの相談窓口を設けていますか。

所属機関として



### 「設けている」内容

#### 【医療・保健】

- ・ 居宅介護支援事業所
- ・ 訪問看護ステーション
- ・ 往診サポートセンター（歯）
- ・ 医療ソーシャルワーカーの配置
- ・ 事務所へ窓口設置（医事が担当）
- ・ 在宅医療部門を設置している（薬）

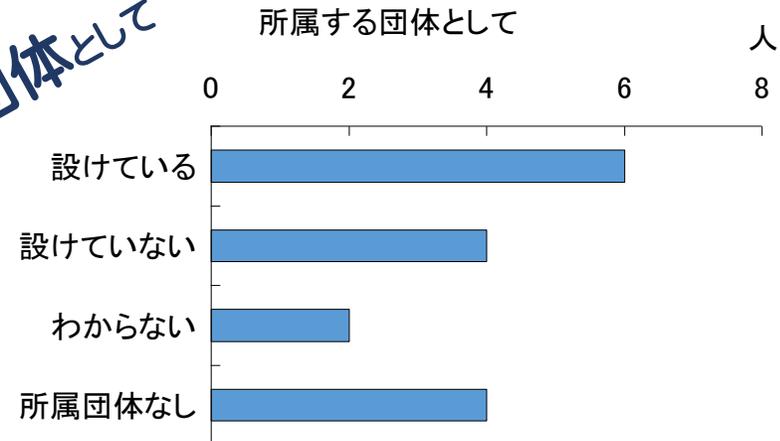
#### 【介護】

- ・ 自身の居宅介護支援事業所
- ・ 担当者を選任し、相談を受けれる体制にしている（介）

#### 【福祉】

- ・ 高齢者の総合相談
- ・ 患者様サポート相談窓口として、在宅医療と介護に特化はしていないが、平日の日中に相談窓口として設置

所属団体として



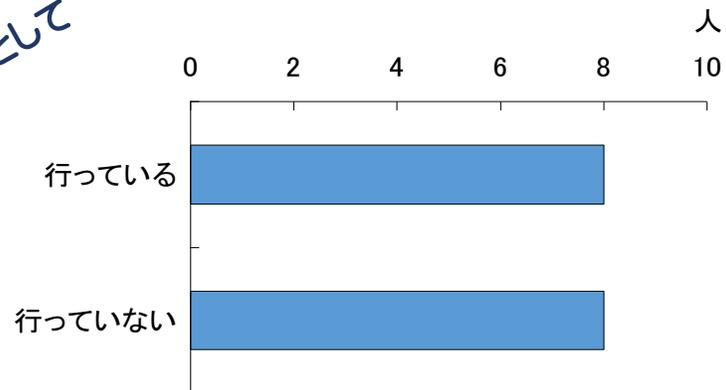
### 「設けている」内容

#### 【医療・保健】

- ・ 医師会に介護担当理事
- ・ コールセンター事業（看）
- ・ 往診サポート推進センター（歯）
- ・ 岡山県栄養士会の栄養ケアステーション
- ・ 在宅介護特別委員会の設置（薬）

## 問6. 多職種での研修会や交流会などを行っていますか。

所属機関として



### 「行っている」内容

#### 【医療・保健】

- ・医療福祉連携課の呼びかけで多職種ミーティングを実施
- ・法人内の研修はすべて全職種・職員を対象にしている（医・看）
- ・病院主催の連携の会への参加、地域の多職種ミーティング参加

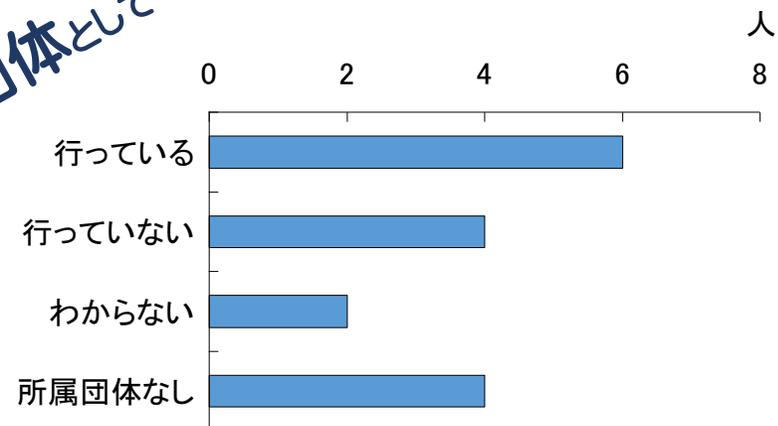
#### 【介護】

- ・法人では2か月に1回程度、様々な研修会を行っている。テーマは適宜その時のニーズに応じて検討している。（デ）

#### 【福祉】

- ・日生医療保健福祉情報交換会／北サブ情報交換会／権利擁護セミナー
- ・備前病院・備前さつき苑情報交換会を開催。年3回予定。ケアマネジャー、開業医へ案内。

所属団体として



### 「行っている」内容

#### 【医療・保健】

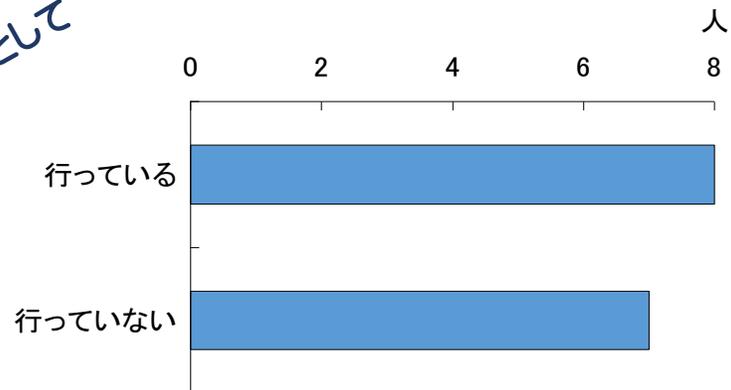
- ・岡山県地域包括ケアシステム学会（理）
- ・地域サロンやカフェの開催（看）

#### 【介護】

- ・法律に関するオープンセミナー、相談援助技術に関するオープンセミナー（居）

## 問7. 住民向けの在宅医療や介護等に関する講演会の開催やパンフレットの配布等を行っていますか。

所属機関として



「行っている」内容

### 【医療・保健】

- ・地域医療連携普及啓発事業として「健康エンターテイメント」を行った（医・看）
- ・パンフレットの配布（歯）
- ・店舗にて講演会を開催（薬）

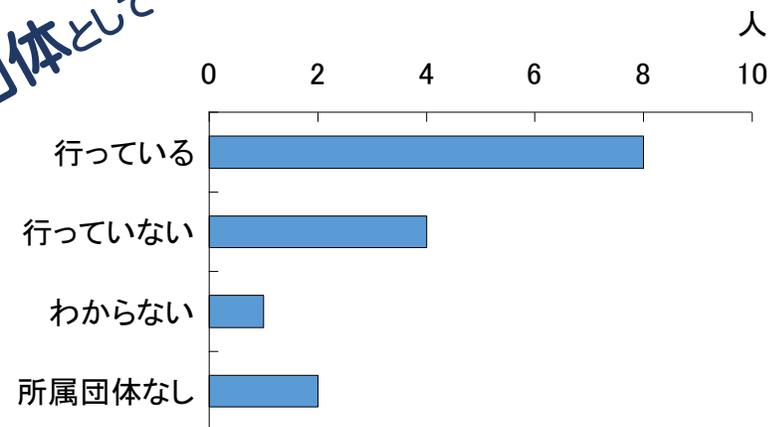
### 【介護】

- ・所属団体、行政等からのチラシを配布（居）

### 【福祉】

- ・認知症予防講演会／介護者交流会／介護者の会／サロンや民生・愛育委員会等での制度改正や新総合事業の説明／広報びぜんで総合事業について説明
- ・健康教室（毎月）、糖尿病教室（1回/月）、なぎさ会（4回/年）

所属団体として



「行っている」内容

### 【医療・保健】

- ・地域連携の会で講演者として活動することもある（医）
- ・ホームページ等に情報を掲載（理）
- ・コールセンター事業、マッチングプラザへの参加、他団体等への講師派遣支援、普及啓発事業として（県委託）講演会「輝いて未来を生きるために」（看）
- ・「ふれあい福祉まつり&こども応援フェスタ」にてブース設営パンフレットの配布と相談（歯）
- ・薬立つフォーラム開催

### 【介護】

- ・所属会員が各自で実施（居）

### 【福祉】

- ・市民公開講座として、毎回ではないが、テーマを在宅医療、介護にして開催することがある。

## 問7 - 2. 今後、講演会やパンフレットの作成・配布を行うとした場合、どのような内容に焦点を当てたものがよいと考えますか。

### 【医療・保健】

- ・地域で安心して利用できる社会資源の説明やスタッフの紹介などを知ってもらう活動や地域住民主体で住みやすい地域にしていくことの大切さを講演会で説明していければと考えます。
- ・体験者（当事者、家族）の話を含めた講演会、家に帰れる、在宅生活ができると思えるもの
- ・「看取りの現実」「自宅での看取り」
- ・窓口はどこか、どのような人がサービスを受けられるか、どのようなサービスがあるか。

### 【介護】

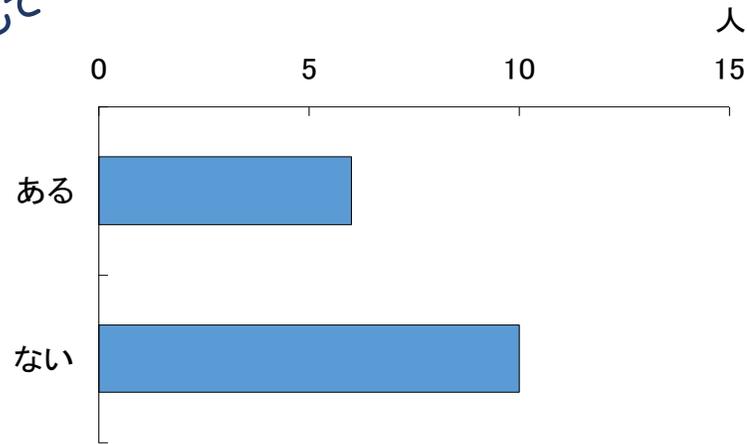
- ・市民の皆様理解、協力が必要なものについて優先順位をつけて作成・配布
- ・制度改正等があったものについてわかりやすい内容がよいと思う（住民向け）
- ・ICTの導入が決まれば、事業所向けに研修をしてもらいたい。
- ・家族に胃ろうに対する十分な知識と情報がなかったため、寝たきりで意思の疎通もままならないまま胃ろうで何年も延命される姿を見て後悔する家族が多くおられた。胃ろうに関する情報をもっと市民に発信していけば、在宅はもとより病院、施設のターミナルケアが随分変わってくると思う。
- ・入所が必要になる前から、予備知識として施設の特徴や条件などがわかるパンフレットがあれば本人にとってどんな施設が合っているか、すすめられるままでなく、一緒に選んだり事前に見学したりできるのではないか。

### 【福祉】

- ・地域包括ケアシステムの考え方（地域づくりや自立支援）について／医療介護連携については、住民が想像しやすく、身近に感じられるような実例を話してもらう（医療・介護関係者が支援したケースの紹介、家族や当事者からの経験談など）がよいのではないか。
- ・対象者、家族、介護事業者、医療者の立場からの意見。イメージを具体化できるもの。

## 問8. 近隣市町の関係機関と情報共有の会議など実施していることはありますか。

所属機関として



「ある」内容

### 【医療・保健】

- ・ 県南東部地域医療連携推進会議、東備地域医療連携推進研修会、備前県民局東備地域医療連携推進事業、地域医療安全研修会（歯）
- ・ 赤穂市内の病院との自立圏域連携会議（年1回）

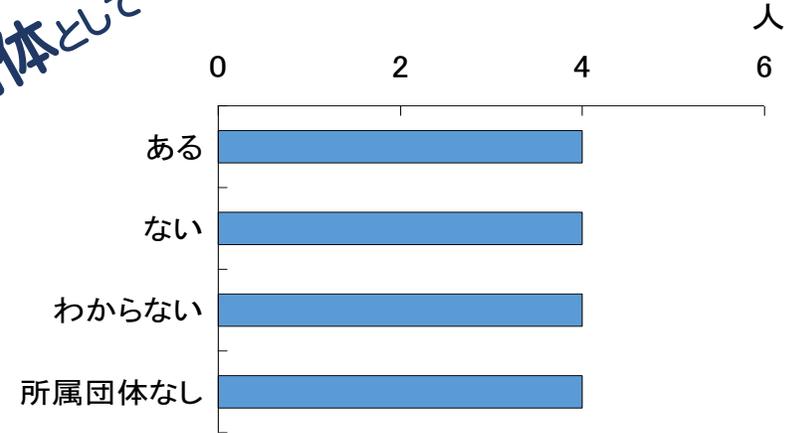
### 【介護】

- ・ 赤穂中央病院（医療連携室）と、退院前カンファレンスや東サブ情報交換会への参加（居）

### 【福祉】

- ・ 四市町連絡会（赤磐・瀬戸内・和気 年2回）／備前県民局市町村地域支援事業連絡会議（不定期）
- ・ 備前病院、さつき苑情報交換会の際に瀬戸内市、和気町が参加。

所属団体として



「ある」内容

### 【医療・保健】

- ・ 行政との連携事業等（医）
- ・ 地区活動として赤磐、備前、瀬戸内、和気の市町村で年3～4回の会議（勉強会を含む）をしている。（看）
- ・ 岡山県備前保健所運営協議会（歯）

## 問8 - 2. 近隣市町との連携において、課題に感じていること、自治体の調整事項として取り上げてほしい事項がありましたらお書きください。

### 【医療・保健】

- ・ 社会資源のパンフレットの交換など
- ・ 保健所の圏域と市町との調整、歯科医師会（医師会も？）の地区区分と行政
- ・ 赤穂市内の病院へは日生から通院されている方も多く、救急車での転院要請が多い為、情報交換の場が増えたらうれしい。

### 【介護】

- ・ A病院（市外）の送迎バス小型化、近隣市町の病院との連携、病院・買物バスの整備、病院・商業施設イオンなどとの連携
- ・ 同じシステムで情報のやりとりができると助かる。

### 【福祉】

- ・ 認知症初期集中支援チームの設置について、今後和気医師会に相談していくことになるが、その際には和気町の同事業を把握の上で調整する必要があると感じている。同事業以外でも和気医師会との連携の上では同様の配慮が必要である。

## 問9. 在宅医療を続けるための医療・介護の連携について、ご意見や各設問で記入できなかった「課題」がありましたら自由にお書きください。

### 【医療・保健】

- ・サービス付き高齢者住宅は在宅の範疇ではあるが、限られた介護保険の介護度の中ではヘルパーの身体援助やデイサービスが多くが使われている。
- ・歯科医師会会員の多くの意見は 今まで診察をしてきた患者さんなら訪問診療がやりやすいといわれてしまいます。
- ・退院後も当院患者への訪問リハビリなど実施できるようになれば、切れ目無く関わり、在宅期間が延ばせるのではないかと考えている。
- ・退院時栄養指導で、ヘルパーさんやケアマネの参加も歓迎。
- ・前回の会議で感じましたが、何も行っていない状態で拒否反応を示されることが気になりました。（自分はやってみてから考える人間なので。）全員一緒に開始でなくてもよいので、1つでも始動できたらよいのかなと思いました。

### 【介護】

- ・公立病院と開業医、市外（県外）病院との連携、病院と老健との連携
- ・レスパイト入院の対応
- ・看護師の配置のない地域密着型通所介護サービス事業所があるため、主治医と適切に連携できない。
- ・地域内で適切な診療科を受診できない課題
- ・タクシー会社のスタッフに介護技術講習を受講してもらう。
- ・公立3病院の合理化、専門化による役割分担と通院手段の確保
- ・（連携）システムの必要性について、現場の共通課題を共有したうえでの協議が必要。
- ・施設入所の要件が厳しくなったことや有料老人ホーム等が市内に多数できたことにより、特養等の入所待機者は以前より大幅に減少している。金銭面から多床室には待機者があるものの、個室が定員割れの施設もあると聞く。このような状況で市内に地域密着型特養が2つも新設されることに理解しかねる。ここまで施設入所のハードルが低くなると、在宅生活が十分可能な方でさえ施設に入所するケースが見受けられる。また、介護職員の不足が深刻で市内の福祉事業諸が職員を取り合う状況が続いている。このような状況で市が承認しないと建設できない地域密着型特養が2つも新設されることについて、医療福祉連携課の見解は？できるだけ在宅でという方針が備前市に存在するのか非常に疑問です。29年度以降の要支援1・2のデイサービス利用者がどうなるのか、事業者にとっては「課題」というより経営存続がかかった非常にシビアな問題となっている。
- ・市中心部と山間部又は離島では利用できるサービスが違ってくると考えられる。加算等の導入を検討してほしい。
- ・設問が在宅向けで少し答えにくい感じがしました。在宅では認められている行為がグループホームではできないことがあり、ターミナルケアをするのであれば家族ならできる医療行為をグループホームでも認められなければ看取りまでの介護は無理と思われる。

## 問9. (つづき)

### 【福祉】

- ・何らかの事情で主治医の元に通院できなくなった場合に医療が途切れないよう往診の対応が可能な病院が増えるとよいと感じる。また、往診可能な病院への紹介がスムーズに行われることが住民にも理解されるとよいと感じる。
- ・医療福祉連携課の取り組みによって医師や病院と介護関係者との距離感が縮まっていると感じているが、参加していない人もいるため同様の取り組みを重ねていくことで連携の促進につながるのではないかと感じる。特に医師が先頭に立つことで効果的な取り組みになっていくのではないかと感じる。
- ・在宅療養を続けるためには、介護力と社会資源が必要と考えます。現在、核家族化や共働き等の社会情勢の中で家族の介護力の希薄化等により、フォーマル、インフォーマルなサービスの確保が求められ、地域包括ケアシステムがうたわれていると理解しています。今現在、厚生労働省が打ち出している地域包括ケアシステムの備前市版を具現化していくことが課題だと思います。また、各専門職種のスキルアップ（医療側は介護の介護側は医療側の知識）も課題のひとつと考えます。

### 【行政等】

- ・消防業務として、かかわることの多い高齢者であるけれど、平時の在宅医療、介護という限定された部分では多くはかかりつけ医療機関もあり、一部のことを除けば問題は少ないと思います。